



形式H（医療、福祉）

熊 本 県

産業廃棄物実態調査票（その1）

1. 本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有償あるいは無償で引き渡している副産物の全てが対象となります。
2. 本調査は、産業廃棄物実態調査：1部、及び産業廃棄物等に係る意識調査：1部で構成されています。  
この調査票は、産業廃棄物実態調査（令和5年度実績）に関するものです。
3. この調査の対象期間は令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の1年間です。
4. 本調査は事業所単位で行いますので、調査票が送付された事業所に関して以下の質問にお答えください。そのため、調査票が送付された事業所から離れた場所に本社や本社工場等があってもそれは調査の対象となりません。
5. 廃棄物が調査の対象期間中に何も発生しなかった場合は、下記の「事業所の概要」、「主な診療科目」、「事業の概要」、「発生の有無」欄まで記入して返送してください。
6. 別紙「産業廃棄物実態調査票の記入の手引き」の注意事項、記入例を参考にしてください。

事業所の概要	事業所名					主な診療科目
	所在地					
	フリガナ		フリガナ			
	代表者氏名		記入者 (部課、氏名)			
	記入年月日	令和    年    月    日	TEL	—	—	
			FAX	—	—	

事業の概要	従業者数（職員数）					病床数				
	令和6年3月31日現在の従業者数（パート等の臨時職員及び役員等を含む）を記入してください。					令和6年3月31日現在の病床数を記入してください。				
					人				床	

発生の有無	令和5年度の1年間に廃棄物は発生しましたか。該当する番号に○をつけてください。	添付した「記入の手引き」を参考にして、本票裏面にある「調査票（その2）」に貴事業所から発生した廃棄物等の状況について記入してください。  ※なお、この調査では廃棄物の発生から中間処理、さらに最終処分もしくは再生利用されるまでの一連の流れを把握するため、以下の場合についても必ずご記入下さい。  ・金属くすなどを「売却」している場合。 （廃棄物に該当しない場合もありますが、調査の対象とします。） ・事業所内もしくは処理業者・廃品回収業者などで再生利用（リサイクル）している場合。 ・処理業者に焼却や破砕などの中間処理を委託してしている場合。 ・処理業者に埋立処分を委託してしている場合。 ・事業所内で何らかの処理を行い、自己処分している場合。 ・事業所内で何らかの処理を行い、処理業者に処分を委託している場合。 ・処分せず、保管中の場合。
	1. 発生した。 →  2. 発生しなかった。 ↓	

上記の事業所の概要・事業の概要に記入の上、ご返送ください。

産業廃棄物実態調査票（その2）

形式H-63

★この調査票の対象期間は令和5年4月1日～令和6年3月31日の1年間です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分状況を質問事項の①～⑭までの流れに従って記入してください。

①事業所で発生した廃棄物の種類  
貴事業所で発生した廃棄物の種類（「記入の手引き」の「廃棄物分類表」に示した具体例を参照）を記入してください。

②廃棄物の分類番号  
「記入の手引き」の「廃棄物分類表」の中から該当する4ケタの番号を記入してください。

③年間の発生量（中間処理する前の量）  
各行ごとに1年間に発生する発生量を、焼却や脱水などの中間処理をする前の量で記入してください。  
なお、単位は該当するものを選び、その番号を○で囲んでください。

④自社での中間処理方法  
自社で中間処理した内容に該当する処理方法の記号を下欄の「④中間処理方法コード表」から選んで、**中間処理の過程順**に記入してください。  
  
例) 自社で脱水(1次処理)→焼却(2次処理)の過程順に処理した場合  
1次処理:B、2次処理:A、3次処理:空白

⑤中間処理後の量  
中間処理後の残さを記入してください。  
なお、単位は該当するものを選び、その番号を○で囲んでください。  
  
注) 自社で中間処理を行っていない場合は、④、⑤を記入する必要はありません。

⑥処理・処分の方法  
発生した廃棄物（自社で中間処理した場合は、中間処理後の廃棄物）の処理・処分方法を下欄の「⑥処理・処分方法コード表」から選んで、記入してください。

⑦処理・処分先又は再生利用先の名称等  
⑥を行った業者の名称と電話番号を記入してください。  
（ここでいう「業者」とは収集運搬業者名ではないことに注意してください）

⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地  
⑥を行った業者・施設などの所在地を記入してください。

⑨処理・処分先又は再生利用先の所在地番号  
⑥を行った業者・施設などの所在地に該当する番号を下欄の「⑨処理・処分先又は再生利用先コード表」から選び記入してください。

⑩委託中間処理の方法  
⑥の「処理・処分の方法」で「U1」と回答された場合（中間処理を委託）は、委託先で中間処理された内容に該当する処理方法の記号を下欄の「⑩委託中間処理方法コード表」から選んで、中間処理の過程順に記入してください。

⑪委託中間処理後の再利用・処分の方法  
委託先で中間処理された後の廃棄物の処理方法に該当するものを、下の1～2から選び番号を記入してください。  
  
1. リサイクル(売却含む)している。  
2. 埋立処分している。

⑫再生利用・リサイクルの用途  
⑥の「処理・処分の方法」で「W1」、「W2」、「W3」、「W4」、「V1」、「V2」、「X1」、「R6」及び⑩で「1」と回答された場合、下欄の「⑫資源化用途コード表」から該当する番号を記入してください。

⑬委託中間処理後のリサイクル、最終処分を行った業者の名称を記入してください。  
委託中間処理後の廃棄物（残さ）のリサイクル、最終処分を行った場所（自治体名）を⑭に記入してください。

区分		①廃棄物の種類	②分類番号	③年間発生量								④処理方法			⑤中間処理後量								⑥ 処理・処分 の記号	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称等 (収集運搬業者を除く)	⑧処理・処分先又は 再生利用先の所在地	⑨ 所在地 番号	⑩処理方法			⑪ 処理後の 処分方法	⑫ 資源化用途	⑬ 再生利用先又は処 分業者名	⑭ 再生利用又は最 終処分場の場所		
H 2	行 番			百 万	十 万	万	千	百	十	一	単位	1次 処理	2次 処理	3次 処理	百 万	十 万	万	千	百	十	一	単位					1次 処理	2次 処理	3次 処理						
記入欄	1									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	2									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	3									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	4									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	5									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	6									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	7									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	8									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	9									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								
	10									1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→										1. kg 4. 本 2. t 5. ㍓ 3. m³	→			( ) —	都道 府県	市 町村								

④中間処理方法コード表

A：焼却  
B：脱水  
C：天日乾燥  
D：機械乾燥  
E：油水分離  
F：中和  
G：破碎  
H：分級  
I：圧縮  
J：溶融  
  
K：切断  
L：焼成  
M：堆肥化  
N：銀回収  
O：乾熱減菌  
P：煮沸  
Q：（15分以上）  
R：オートクレーブ  
S：薬物消毒  
  
Z：その他  
（具体的な処理方法を記入してください）

⑥処理・処分方法コード表

<自己処理>  
Q1：自社の処分場で埋立処分した。  
V1：有償売却できるものを自社で再利用した。  
V2：有償売却できないものを自社で再利用した。  
W1：一般企業（製造業者）に売却（利益があった）した。  
W2：関連企業に売却した。  
W3：商社に売却した。  
W4：個人（農家・牧場等）に売却した。  
Z1：自社で保管している。

<市町村へ委託処理>  
R1：市町村等の一般廃棄物処分場で直接埋立処分した。  
R5：市町村等の清掃工場で焼却処理した。（ごみ収集を含む）  
R6：市町村等のリサイクル施設で資源化・リサイクルした。（ごみ収集を含む）

<産業廃棄物処理業者等へ委託処理>  
S1：処理業者の処分場で直接埋立処分した。  
T1：処理業者で直接海洋投入処分した。  
U1：処理業者に中間処理（資源化・リサイクル含む）を委託した。  
X1：再生資源（廃品）回収業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理した。

<その他>  
Z2：農地等の嵩上げ材として処分した。  
Z3：知人の所有地で処分した。  
Z4：農地・河川敷・山林で処分した。  
  
Z9：その他  
（具体的な処理方法を記入してください）

⑨処理・処分先又は再生利用先コード表

<県内の場合>  
01：熊本市  
02：玉名市、荒尾市、玉名郡（南関町、和水町、長洲町、玉東町）  
03：山鹿市  
04：菊池市、合志市、菊池郡（大津町、菊陽町）  
05：阿蘇市、阿蘇郡（小国町、南小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村）  
06：上益城郡（益城町、嘉島町、御船町、甲佐町、山都町）  
07：宇土市、宇城市、下益城郡（美里町）  
08：八代市、八代郡（氷川町）  
09：水俣市、葦北郡（芦北町、津奈木町）  
10：人吉市、球磨郡（錦町、あさぎり町、湯前町、多良木町、球磨村、山江村、相良村、五木村、水上村）  
11：天草市、上天草市、天草郡（苓北町）

<県外の場合>  
21：北海道  
22：青森県  
23：岩手県  
24：宮城県  
25：秋田県  
26：山形県  
27：福島県  
28：茨城県  
29：栃木県  
30：群馬県  
31：埼玉県  
32：千葉県  
33：東京都  
34：神奈川県  
35：新潟県  
36：富山県  
37：石川県  
38：福井県  
39：山梨県  
40：長野県  
41：岐阜県  
42：静岡県  
43：愛知県  
44：三重県  
45：滋賀県  
46：京都府  
47：大阪府  
48：兵庫県  
49：奈良県  
50：和歌山県  
51：鳥取県  
52：島根県  
53：岡山県  
54：広島県  
55：山口県  
56：徳島県  
57：香川県  
58：愛媛県  
59：高知県  
60：福岡県  
61：佐賀県  
62：長崎県  
63：――  
64：大分県  
65：宮崎県  
66：鹿児島県  
67：沖縄県

⑩委託中間処理方法コード表

A：焼却  
B：脱水  
C：天日乾燥  
D：機械乾燥  
E：油水分離  
F：中和  
G：破碎  
H：分級  
I：圧縮  
J：溶融  
  
K：切断  
L：焼成  
M：堆肥化  
N：銀回収  
O：コンクリート固型化  
T：金属（鉄）回収  
U：非鉄金属回収  
V：濃縮  
W：油化  
  
Z：その他  
（具体的な処理方法を記入してください）

⑫資源化用途コード表

10：鉄鋼原(材)料  
20：非鉄金属・貴金属原(材)料  
30：燃料又はその原(材)料  
41：飼料又はその原(材)料  
42：肥料又はその原(材)料  
43：土壤改良材又はその原(材)料  
50：建設材料  
52：再生骨材・再生路盤材  
60：パルプ・紙又はその原(材)料  
70：ガラス原(材)料  
80：プラスチック原(材)料  
81：再生タイヤ  
90：セメント原材料  
91：再生油・再生溶剤  
92：中和剤  
  
98：その他  
（具体的な用途を記入してください）

注1）11行以上の記入欄が必要な場合は、あらかじめ用紙をコピーするか、株式会社グリーンエコまで追加用紙をご請求ください。

産業廃棄物実態調査票の記入の手引き

産業廃棄物実態調査票（その2）の記入上の注意事項

形式ーH：63

調査対象期間

- この調査の対象期間は、令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～⑭までの流れに従って記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、**調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物だけ**が記入の対象となります。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、**この手引きの裏面に「廃棄物分類表」があります**ので参考にしてください。
- 自社で**再生利用**、または、**売却**、**処理業者等**で**再生利用**している**廃棄物**も、今後のことを考慮してこの**調査の対象**とします。

発生量について

- 発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、**「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」**をお答えください。
  - 自社で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。（記入例Cを参考にしてください）  
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間の発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の種類」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。
  - 自社で脱水**している場合の発生した廃棄物とは**脱水前のもの**です。  
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間の発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。  
**<式>：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100％－脱水後の含水率％）÷（100％－脱水前の含水率％）**
- ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。
  - 廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
  - 含油廃水を油水分離した場合。 → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（行を分けて記入）発生量とします。

産業廃棄物実態調査票（その2）の記入例

の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例A～Dを参考にして調査票(その2)を記入してください。

本紙の裏面の廃棄物分類表を参照してください。

該当する単位の番号に、必ず○をつけてください。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg(又は1リットル)未満の場合は、「0(ゼロ)」を記入し、単位はkg(又はリットル)に○をつけてください。

該当する単位の番号に、必ず○をつけてください。

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入してください。

中間処理後の残さ(中間処理物)を最終的に再生利用(売却含む)又は最終処分(埋立、海洋投入)した処分業者名(売却先が特定できる場合は事業者名)を⑬に記載してください。なお、中間処理業者自らが処理後に有価物として売却している場合は、中間処理業者が再生利用先(⑦＝⑬)に該当します。

中間処理後の処理残さ(中間処理物)の「最終処分の場所」を⑭に記載してください。なお、中間処理業者自らが処理後に有価物として売却している場合は、中間処理施設の所在地(設置場所)が「最終処分の場所(⑧＝⑭)」に該当します。

区分	H 2 行 番	①廃棄物の種類	②分類番号	③年間発生量							単位	④処理方法							⑤中間処理後量	単位	⑥処理・ 処分の記 号	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称等 (収集運搬業者を除く)	⑧処理・処分先又は 再生利用先の所在地	⑨所在地 番号	⑩処理方法			⑪処理後の 処分方法	⑫ 資源化用途	⑬再生利用先 又は処分業 者	⑭再生利用又は最 終処分場の場所	
				百	十	万	千	百	十	一		1次 処理	2次 処理	3次 処理	百	十	万	千	百	十	一				1次 処理	2次 処理	3次 処理					
記入例:A	1	感 染 性 廃 棄 物	2 0 1 8					3	0	0	kg										1	〇〇産業	(〇〇〇〇) 〇〇 - 〇〇〇〇	都道府県 熊本 市 町 村	0 1	A			2		××(株)	菊池市
記入例:B	2	写 真 定 着 廃 液	0 4 0 2					4	0	0	kg										1	〇×産業	(〇〇〇〇) 〇〇 - 〇〇〇〇	都道府県 玉名 市 町 村	0 2	F	N	1	20	〇×産業	玉名市	
	3	写 真 現 像 廃 液	0 5 0 2					3	0	0	kg										1	〇×産業	(〇〇〇〇) 〇〇 - 〇〇〇〇	都道府県 玉名 市 町 村	0 2	F		2		△×(株)	水俣市	
記入例:C	4	廃 プ ラ ス チ ッ ク 類 ( 非 感 染 性 の も の )	0 6 1 4					1	0	0	kg	A						1	0	0	kg	△△産業	(〇〇〇〇) 〇〇 - 〇〇〇〇	都道府県 八代 市 町 村	0 8							
記入例:D	5	ガ ラ ス く ず ( 非 感 染 性 の も の )	1 3 1 0					2	0	0	kg										1	〇〇産業	(〇〇〇〇) 〇〇 - 〇〇〇〇	都道府県 水俣 市 町 村	0 9							
記入例:E	6	不要伝票	0 7 0 1					1	0	0	kg										1		( )	都道府県 熊本 市 町 村	0 1							
	7										kg											( )	都道府県 市 町 村									

記入例：A

- ・当病院では、感染性廃棄物が年間300kg発生した。
- ・院内では処理せず(株)△△に収集運搬委託し、熊本市に処理施設を保有する〇〇産業に焼却処理してもらった。
- ・焼却後の燃え殻は埋立しているとのことである。
- ・焼却残さ（燃え殻等）の最終処分場所は、菊池市にある××(株)の最終処分場である。

記入例：B

- ・当病院ではレントゲン写真定着廃液が年間400kg発生し、定期的に取りに来る玉名市の〇×産業に委託している。
- ・〇×産業では、中和処理後に銀を回収しているようである。
- ・レントゲン写真現像廃液も年間300kg発生し、同じ業者に処理を委託しており、業者で中和処理を実施し、その後の汚泥を埋立処分している。
- ・中和処理後の汚泥の最終処分場所は、水俣市にある△×(株)の最終処分場である。

記入例：C

- ・当病院では非感染性の廃プラスチックが年間で1t発生した。これを院内（熊本市）の焼却炉で焼却し、その灰は100kg程度で△△産業（八代市）に委託し、埋立処分してもらった。

記入例：D

- ・当病院では、非感染性のガラスくずが年間で2t発生した。院内では処理をせずに水俣市に処分場を持つ〇〇産業に埋立処分してもらった。

記入例：E

- ・当病院では、不要伝票が年間で100kg発生した。院内では処理をせずに〇〇産業(株)に収集を委託し熊本市の焼却施設で焼却処分した。



廃棄物分類表（その１）

※爆発性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している  
廃棄物は、特別管理産業廃棄物として分類されます。

表 １：感染性廃棄物の分類表

種 類		分類番号	具 体 例
感染性産業廃棄物		２０１８	血液、血清、血漿、体液（精液を含む）、血液等が付着した鋭利なもの（注射針、メス、試験管、シャーレ、ガラスくず等）、血液等が付着した実験・手術用手袋等、病原微生物に関連した試験・検査等に用いられたもの（試験管、シャーレ等）、汚染物が付着した廃プラスチック類等

表 ２：非感染性廃棄物分類表（産業廃棄物）

種 類			分類番号	具 体 例
有機性汚泥			0 2 1 1	検査室や実験室などの排水処理施設から発生する汚泥 （し尿を含む浄化槽汚泥は除く）
廃 油	一般廃油	鉱物油	0 3 1 1	冷凍機やポンプなどの潤滑油
		動植物性油脂	0 3 1 2	入院患者の給食に使った食用油（天ぷら油等）
	廃溶剤		0 3 2 0	アルコール類、ケトン、洗浄油
	油でい		0 3 4 0	タンクスラッジ、オイルスラッジ、オイルトラップ汚泥、油性スカム
	油付着物等		0 3 5 0	油の滲みたウエス、油紙くず、廃吸油材
廃 酸	無機性の酸性廃液		0 4 0 1	ホルマリン、その他の酸性の廃液
	レントゲン写真定着廃液		0 4 0 2	レントゲン写真定着廃液
廃 ア ル カ リ	アルカリ性廃液		0 5 0 1	検査廃液、その他のアルカリ性の廃液
	レントゲン写真現像液		0 5 0 2	レントゲン写真現像液
チ 廃 プ ラ ス チック 類 ス	プラスチック製品くず		0 6 1 4	合成樹脂製の器具、レントゲンフィルム、ビニールチューブ、その他の合成樹脂製のもの
木くず			0 8 0 2	パレット、パレットへの貨物の積付けのために使用したこん包用の木材
ゴムくず			1 1 0 0	天然ゴムの器具類、ディスプレイザブルの手袋など
金 属 く ず	鉄くず		1 2 1 0	鉄くず、スクラップ（主体が鉄製の場合）、ブリキくず、トタンくず、スチール缶
	非鉄くず		1 2 2 0	銅線、銅くず、アルミくず、アルミ缶
	混合金属くず		1 2 3 0	自社にて分別を行わなかったものや分別不可能なもの
ガラスくず、コン クリートくず 及び陶磁器くず		ガラスくず	1 3 1 0	白熱電球、窓ガラス、びん類、グラスウール、ガラス食器、光学レンズ、理化学用ガラス器具、薬品ビン
		陶磁器くず	1 3 2 0	ギブス用石膏、陶磁器の器具、その他の陶磁器製のもの
		コンクリート製品くず	1 3 4 0	コンクリート製品くず
紙おむつ			9 0 8 0	紙おむつ（感染性でないと判断したもの）
混 合 廃 棄 物	混 合 物	安定型混合廃棄物	2 1 0 0	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類のみを含む混合物で分別ができない廃棄物
		管理型混合廃棄物	2 2 0 0	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類以外の廃棄物を含む混合物で分別ができない廃棄物
	複 合 材 ・ 廃 製 品	廃自動車	3 0 0 0	廃自動車、廃二輪車
		廃電気機械器具	3 1 0 0	プリント配線板、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、パソコン、電話機、自動販売機、蛍光灯など
		水銀使用製品産業廃棄物	6 4 1 7	水銀を含む照明器具、電池類等
		水銀含有物	6 5 0 0	水銀を15mg/ｋｇを超えて含有する汚泥、廃酸、廃アルカリ、鉱さい、ばいじん、燃え殻等
		廃電池類	3 5 0 0	鉛蓄電池（バッテリー）、乾電池
		複合材	3 6 0 0	2つ以上の異なる素材が一体的に組み合わせられている製品の廃棄物

廃棄物分類表（その２）

表 ３：非感染性廃棄物分類表（特別管理産業廃棄物）

種 類		分類番号	具 体 例
引火性廃油		０３１８	揮発油類（ガソリン、灯油、軽油、シンナー、キシレン、エーテル）
腐食性廃酸		０４０８	水素イオン濃度指数〔pH〕が2.0以下の廃液
腐食性廃アルカリ		０５０８	水素イオン濃度指数〔pH〕が12.5以上の廃液
特定有害産業廃棄物	特定有害汚泥	０２１９	特定有害物質を含む汚泥
	特定有害廃油	０３１９	特定有害物質を含む廃油
	特定有害廃酸	０４０９	特定有害物質を含む酸性廃液
	特定有害廃アルカリ	０５０９	特定有害物質を含むアルカリ性廃液
	特定有害ばいじん	１８０９	特定有害物質を含むばいじん
	特定有害廃水銀等	５１０８	特定施設において生じた廃水銀等
廃PCB等		７４１９	廃PCB等、PCB汚染物、PCB処理物